

令和7年度

「平和について」ポスター・作文コンテスト

入賞作品集



目次

令和7年度「平和について」ポスター・作文コンテスト . . . 2

ポスターの部（小学校6年生）入賞者

市長賞「平和のピースはみんなで埋めるもの」 緑が浜小学校 なかむら はるほ 中村 晴歩 . . . 3

議長賞「平和をつなげる」 室田小学校 まつだ ちひろ 松田 知優 . . . 3

教育長賞「育てよう 世界の平和」 浜須賀小学校 さとう なつき 佐藤 菜月 . . . 4

作文の部（中学校2年生）入賞者

市長賞「対話と平和」 円蔵中学校 たかはし めい 高橋 芽生 . . . 5

議長賞「当たり前を当たり前にする世界へ」 円蔵中学校 あづま ゆめ 吾妻 結愛 . . . 6

教育長賞「平和への願い、僕たちができること」 赤羽根中学校 こんの だいき 今野 大輝 . . . 7

平和都市宣言 8

茅ヶ崎市核兵器廃絶平和都市宣言 9

令和7年度
「平和について」ポスター・作文コンテスト

- | | | |
|---|---------|---|
| 1 | 募 集 | 広報ちがさき 4 月 1 日号及び学校を通じて市内在住・在学の
小学校 6 年生を対象に「平和について」のポスターを募集。
中学校 2 年生を対象に「平和について」の作文を募集。 |
| 2 | 参 加 状 況 | 小学校 6 年生ポスターの部 7 5 5 人
中学校 2 年生作文の部 1 1 8 人 |
| 3 | 審 査 | (1) 一次審査
・ポスターの部
6 月 1 2 日 (木) 午後 3 時 3 0 分から午後 5 時まで
市役所本庁舎 4 階 会議室 2 ～ 4
・作文の部
6 月 4 日 (水) から 6 月 1 1 (水) まで
(2) 事前審査
・ポスターの部／作文の部
6 月 1 7 日 (火) から 6 月 2 5 日 (水) まで
(3) 最終審査・賞の決定
・ポスターの部／作文の部
6 月 3 0 日 (月) 午後 3 時 3 0 分から午後 4 時まで
市役所分庁舎 5 階 F 会議室 |
| 4 | 審 査 員 | (1) 一次審査員
茅ヶ崎・寒川地区小学校教育研究会推薦教諭
茅ヶ崎・寒川地区中学校教育研究会推薦教諭
(ポスターの部 2 人・作文の部 2 人)
(2) 最終審査員
市長、市議会議長、教育委員会教育長、文化スポーツ部長、
教育指導担当部長、学校教育指導課長、多様性社会推進課長 |

ポスターの部（小学校6年生）

市長賞



緑が浜小学校 なかむら 中村 はるほ 晴歩

議長賞



室田小学校 まつだ 松田 ちひろ 知優

教育長賞



浜須賀小学校 佐藤 菜月

作文の部（中学校2年生）

市長賞「対話と平和」

円蔵中学校 たかはし 高橋 めい 芽生

大切な人にレモンを買おうとする。店に行くと、もう一人レモンを求めている人がいた。だが、レモンは一つしかない。あなたなら、どうするだろうか。

これは、昨年に参加した国際理解講座で、考えたテーマである。私がレモンを買う人の立場だったら、とっさに譲ってしまうと思う。しかし、たった一つのレモン——もしこれが領土だったら。自分にも相手にも、領土が必要な理由がある。手に入れるか手放すかで、将来が大きく左右されるかもしれない。そこで、和平交渉がうまくいかず、武力で解決しようとすることで、戦争という悲劇に発展することがあるのではないか。

一九四五年八月。広島と長崎に、原子爆弾が投下された。たくさんの尊い命が失われた。この戦争で、敵や味方関係なく、傷ついた人は大勢いただろう。そう考えると、胸が苦しくなる。戦争は、人の命、未来を奪う残酷なものだと感じた。そんな戦争が、今、世界各地で起こっている。いつか、広島や長崎のような悲劇が、また繰り返されてしまうのかもしれないと思うと、怖くなった。そして、そんなことは絶対にあってはならないと強く思う。平和な世の中にしていくために必要なことは何か、考えた。

戦争は、人間同士の争いだ。争いに発展させないためには、両者が話し合いで解決の糸口を探していくことを、諦めないことが重要だと思う。私が考えた、話し合うときに大切なことは、二つある。一つ目は、「相手を尊重する気持ち」だ。自分がそうであるように、相手にも守りたいものがある。国民、領土、宗教、資源、人々の思い…。相手は、自分と違う所はたくさんあるかもしれないが、同じ地球に生きる人間であることには変わらない。そういったことを自覚し、意見を伝え合う。二つ目は「色々な視点をもつこと」だ。立場が変われば、考え方も異なる。自分の意見が正しいと限らない。だから、先入観を捨て、相手側の思いや過去を知り、様々な角度からの考えを捉えるのだ。見つけた視点を伝え合うこともよいと思う。自分だけの意見に固執するのではなく、相手の意見にも向き合い、お互いにとっての最善案を模索していくべきなのではないだろうか。

話し合いの結論は、すぐには出ないかもしれない。だが、何よりも大切なのは、諦めずにお互いが一歩ずつ一歩ずつ歩み寄ることだ。少しずつ少しずつ進むことだ。「共存」という平和への道筋を、相手と共にたどることだ。地球に生きるすべての人が、平和を愛し、武器を捨て、対話で争いのない世界を築いていく。そんな未来を創るために、私は「平和の尊さを伝え続ける」人でありたい。過去の歴史を学び、戦争の悲惨さを心に刻み、決して忘れない。そして、伝え続ける。対話の大切さ、武力の恐ろしさを。いつか、世界が平和に満ちる日がくることを願って。

議長賞「当たり前を当たり前にする世界へ」

円蔵中学校 ^{あづま}吾妻 ^{ゆめ}結愛

「戦争」これは、平和とは真逆の存在である。広島で起きた原爆での死者はおおよそ十四万にも及ぶ。その中でも、三.八万人は子供だったという。

私は、言葉を失った。なぜなら、無関係の人達のたくさんの尊い命がなくなってしまったと知ったからだ。自分自身が生きているということは、当然ではないということを再確認させられた。今日というこの日も、誰かが生きたいと願った日であり、「絶対に無駄にしてはいけない」そう思うことができた。こんなにも命を愛おしいと思ったことはない。この戦争で、何万という人が亡くなった。その一人一人には大切な人がいて、大きな夢や小さな夢などがあっただろう。それを、戦争という名の悪魔が壊してしまったことに、私はひどく憤りを感じる。現在日本では、同じ過ちを繰り返さないために戦争をしないことを誓った。それは、平和への大きな一歩だったのではないだろうか。今までとは違うことをするということは、とても勇気のいることだったと私は思う。間違っているからもう二度と繰り返してはいけない、そう思いきりと改善しようとした、日本は誇るべき国だと思う。

私の思う平和とは、国同士での争いが無いことだ。そのためにも、日本のように戦争をしないと誓う国が、この先の未来で増えていることを私は願う。そして、私は自分にできることは何かを考えた。それは、身近なところに潜んでいる小さな争いの種を取り除くことだ。例えば、悪口を言わないということ、喧嘩をしないということ。人を憎んだり、うらやんだりしないということ。何事にもきちんと感謝の言葉を伝えるということ、言葉遣いに気をつけるなど山ほどある。これは、全て当たり前のことである。しかし、その当たり前をおろそかにしてしまうのが人間だ。だからこそ、その当たり前をみんなが当たり前にするようになる、というのが大事だと思う。私だけでなく、みんなが当たり前を当たり前にすることで、やっとな小さな平和が生まれると考えたのだ。あなたは、きちんと当たり前ができているだろうか。少なくとも今までの私は、絶対にできていなかった。しかし、そんな今までを悔やむのではなく、当たり前を当たり前にするということの大切さに気づけた。「これから」を大事にすることで、私自身が平和へと小さな一歩を踏み出せると思うのだ。また、当たり前を当たり前にしようとみんなに伝えることも必要だ。とはいえ、私一人が当たり前について語ったとしても、みんなの心を動かすのは非常に難しいことだ。だからこそ、私はあなたと一緒に手を組んで一步一步丁寧に、平和へと近づいていく。

教育長賞「平和への願い、僕たちができること」

赤羽根中学校 この今野 だいき大輝

今、僕は毎日平和に幸せに暮らしていると思う。家族がいて、友達がいて、学校に行けて、ゲームしたり、お腹いっぱいご飯が食べれて安心して眠れる家があり、これ以上ない幸せな暮らしができていないのではないかと思う。しかし、ひと昔前の第二次世界大戦の時代ではそんな生活は夢のまた夢ではなかったのではないだろうか。

僕の祖父は昭和十三年生まれで、ちょうど小学生の時に戦争を経験した。大阪に住んでいたけれど、一家で福島へ疎開した。空爆に怯えながら生きるか死ぬかの瀬戸際でどんな気持ちだったのだろうか。祖父の話聞いて心が張り裂けそうになった。食べるものがなく、随分と苦労したらしい。中学生の時は終戦していたけれど、祖父の父が戦争のせいで職を失い、その影響でとても貧しく中学校にお弁当を持っていくお米がなくみんながお弁当を食べている時間の昼休みには鉄棒のところでぶらぶらしてみんなが食べ終わるのを待っていたと話してくれた。それを聞いて僕は心が痛んだ。今なんて飽食の時代と言われ、食べ物を廃棄したりしているというのに。祖父は「昔は食べ物がなくて、食べれない時代。今は食べ物があっても、食べない時代。」と言うのが印象的だった。タイムマシンがあつたら、僕が祖父のところに行って食べ物を届けてあげたいと思った。千九百四十五年に終戦したけれど、その後も苦労している人が沢山いるのだと感じた。

戦争の惨さや厳しい生活を思うと今の暮らしはとても平和で幸せなんだと思う。こんな何気ない当たり前の生活ができるのが当たり前ではなかったわけで、色々な事に感謝しながら生活しなければいけないと思った。今のような平和な暮らしをずっとしていきたい。しかし、今尚、戦争や紛争が絶えない国がある。平和な暮らしや生活ができていない人達が沢山いる。僕には戦争を辞めさせる力はないけれど、平和を願うことはできる。「戦争」も「平和」もみんな人によって起きていて、この世界は人によっていい方にも悪い方にも創られる。一人ひとりが家族や周りの人達に感謝する気持ちを忘れずに、身近な人達を大切に、幸せに暮らそうと努力すること、平和を願い、そして、相手を憎んだり恨んだりする気持ちがなくなれば、世界はもっと平和になるのではないと思う。そういった考え方の人達が増えて、周りの人達を幸せにし、またその人達も同じ気持ちで周りの人達を幸せにしていけば、それが広がり、優しい世界になるのではないだろうか。

それが、今僕たちができることだと思う。

平 和 都 市 宣 言

茅ヶ崎市は、正義と秩序を基調とする世界平和を希求している日本国憲法の精神にもとづいて、世界連邦の建設に同意し、世界の永久平和の確立と人類の福祉増進のために、全世界の人々と相結んで、この崇高な目的の達成に努力する平和都市であることを宣言する。

1 9 6 2 年 1 2 月 1 9 日 茅ヶ崎市議会

茅ヶ崎市核兵器廃絶平和都市宣言

茅ヶ崎市は、1962年12月19日世界人類共通の願いである真の恒久平和を希求し、その実現に努めるため、平和都市宣言を行った。

しかるに地球上では今なお核兵器の増強はとどまることなく、全人類の生存に深刻な脅威をあたえている。

よって、再び全市民の名において次の宣言をする。

日本国憲法に基づき国是である非核三原則を遵守する国とともに、地球上のすべての自然を破壊し、全人類を滅亡させるにたるあらゆる国の核兵器の使用を全面禁止する国際世論を喚起するため、茅ヶ崎市はここに核兵器廃絶平和都市であることを宣言する。

1985年12月24日 茅ヶ崎市

令和7年度 「平和について」ポスター・作文コンテスト入賞作品集

令和7（2025）年7月発行

第1刷 70部作成

発 行 茅ヶ崎市

編 集 文化スポーツ部多様性社会推進課

〒253-8686

神奈川県茅ヶ崎市茅ヶ崎一丁目1番1号

電話 0467-81-7150

FAX 0467-57-8388

ホームページ <https://www.city.chigasaki.kanagawa.jp/>

※掲載されている作品は、令和7年5月30日以前に書かれたものです。

※作品集の作成にあたり、明らかな誤字・脱字以外は原文のままで編集を行っています。